

新規選定① ^{しゆくばまち}宿場町、^{もんぜんまち}門前町の性格を併せ持つ^{ざいごうまち}宇和島藩の在郷町

西予市宇和町卯之町伝統的建造物群保存地区

所在地 愛媛県西予市宇和町卯之町二丁目、三丁目及び四丁目の各一部
面積 約4.9ヘクタール

西予市は愛媛県西南部に位置する。宇和町は、西予市の中央やや西寄り、^{ひじかわ}肱川上流に広がる宇和盆地を占め、この盆地の中心集落が卯之町である。

卯之町は伊予^{さいおんじ}西園寺氏の^{まつばじょうかまち}松葉城下町に起源を持つ。江戸時代を通じて^{うわじまはん}宇和島藩に属し、宇和盆地の農産物や^{ひのき}宇和檜の集散地として、また、宇和島街道の宿駅や、^{ふだしょ}四国霊場第四三番札所、^{げんこうさんめいせきじ}源光山明石寺の門前として賑わった。

江戸時代の卯之町は宇和島街道に沿って町場が形成されていた。^{おおず}大洲から宇和盆地に入る宇和島街道は、この辺りでは肱川に平行に西北から東南に通る。西北側から卯之町に入ったところが^{しんち}新地で、^{ますがた}新地から^{なかのちよう}枅形を越えると卯之町の中心の中町となる。中町東南端で街道は西南方向に折れ、^{しものちよう}下町を下って卯之町を抜け、肱川を渡って宇和島方面に続く。

明治35年頃に中町を通る宇和島街道の南側に、これと平行して県道が開通すると、商業や行政などの都市機能は徐々に南方に移ることとなった。さらに、昭和16年には現在の予讃線の卯之町駅が県道の南側に設置され、昭和36年には県道と鉄道の間に国道が開通し、かつての街道沿いは醸造業等の産業が存続したことを除き、静かな住宅地となっていた。

保存地区は、宇和島街道に面した卯之町の町場のうち、^{よこまち}県道以北、中町南裏の横町、北裏の^{あざだいねんじ}字大念寺を含む約4.9ヘクタールの範囲である。近世の地割りが良く残り、宇和島街道沿いに、開口部以外を塗籠める^{つまい}棧瓦葺の重厚な町家が良く残る。町家は、屋根の妻を正面に向ける^{ひらい}妻入りと、平を正面に向ける平入りが混在し、格子や持ち送り、飾り瓦等の意匠に特徴がある。

西予市宇和町卯之町伝統的建造物群保存地区は、近世前期に成立した^{ざいごうまち}在郷町を地区の範囲とし、^{しゆくばまち}宿場町、^{もんぜんまち}門前町の性格を併せ持つ。近代以降に町の中心が南に移動したため旧の中心部が保存され、江戸時代からの地割りや重厚な町家等を良く残し、我が国にとって価値が高い。

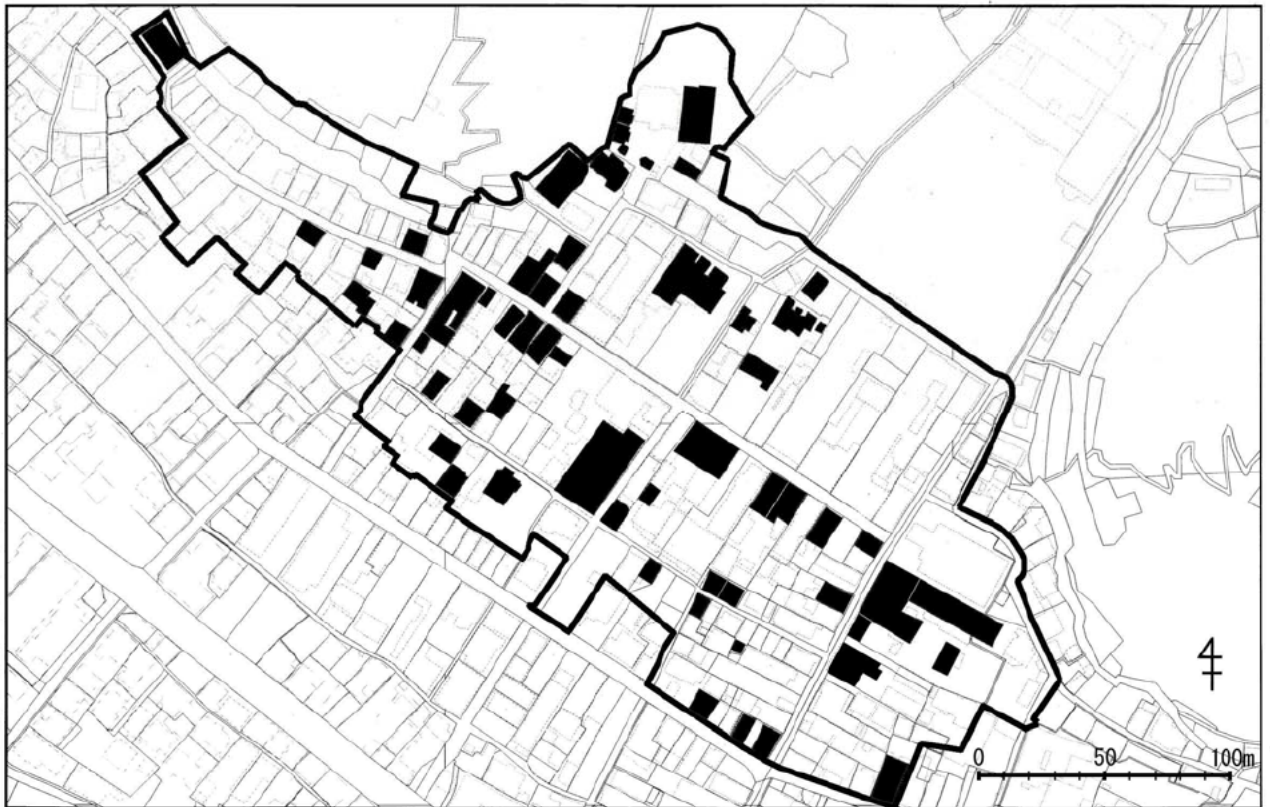


宇和島街道沿いの中町の町並み



宇和島街道沿いの中町から下町に至る町並み

西予市宇和町卯之町伝統的建造物群保存地区の範囲



■ 伝統的建造物（建築物）

追加選定① 石見銀山の外港等として栄えた温泉のある港町

おおだしゆのつ 大田市温泉津伝統的建造物群保存地区

所在地 大田市温泉津町温泉津の一部

面積 約36.6ヘクタール（うち、拡大約2.9ヘクタール）

島根県大田市西部に位置する温泉津湾^{ゆのつわん}は、リアス式海岸特有の地形により港湾に有利な条件を備え、古くから山陰地方の海上交通の要所とされてきた。温泉津の町並みは、湾奥北側の小規模な入江に面し、ここから東に延びる谷筋に沿って形成された。

古代より温泉^{おんせん}が湧く場所として知られ、中世から近代にかけて西日本海の物流拠点、毛利水軍^{もうり}の拠点、石見銀山^{いわみぎんざん}の外港、北前船^{きたまえぶね}の寄港地等として町場を発展させてきた。大正7年に現在の山陰本線の温泉津駅が山を隔てた小浜地区^{こはま}に設けられると、海運業は急速に衰退し、以後は温泉業と漁業が町の産業の中心となった。

平成16年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されたのは、浜地と町場の境を西端とし、谷を約800メートル辿ったところを東端とする集落の範囲と、この周囲の丘陵地を尾根線まで含む区域^{ゆのつがわ}で、温泉津川、道路、水路による町の構造は、近世の地割りをよく残す。伝統的建造物は、延享4年（1747）の大火^{えんきょう}以降のもので、江戸後期から昭和初期までの年代幅がある。切妻造平入りで、赤茶色^{せきしゅう}の石州瓦で葺く町家が多くを占め、これらと並んで屋敷型の家屋と漆喰塗土蔵、洋風の住宅、木造の旅館等、町の移り変わりを伝える建築が残る。また、5カ寺4社が各所に配され、変化に富んだ町並みを形成する。

今回追加する区域は、既選定地区の西に隣接する約2.9ヘクタールの範囲で、浜地、内港を形成する西側の岬及び海水面を含む。保存地区が海運業で栄える間、岬は風除け^{けいりゅう}となって繫留^{はしけ}に適した水域をつくり、舢舨^{はしけ}を浜地につけて荷の積み下ろしが行われた。このことは、廻船問屋の大きな敷地割が港付近に残ることと密接に関係する。また、海上から眺めると、内港と浜地、それらを挟む岬の丘陵が町並みと一体の景観を形成している。

大田市温泉津伝統的建造物群保存地区は、中世より海運業で発展する温泉のある港町である。江戸時代の地割りや、自然地形に対応した土地利用を良く残し、各時代の多様な伝統的建造物が遺存する。今回拡大しようとする範囲は、これらの町並みと一体を成して歴史的風致を形成しており、併せて保存、整備するものである。

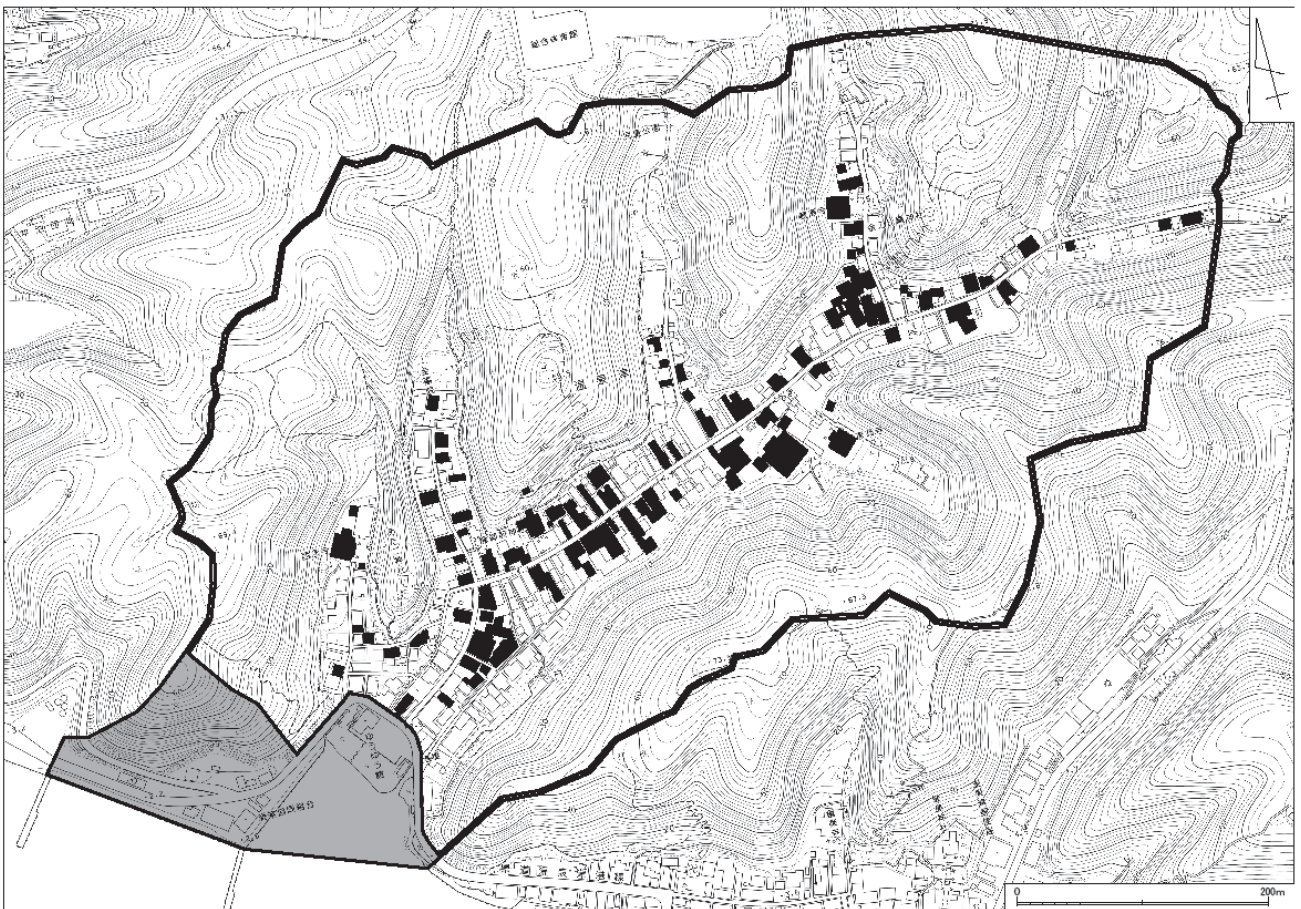


海から眺める保存地区の景観



保存地区の鳥瞰

大田市温泉津伝統的建造物群保存地区の範囲
(網掛け部分が今回追加する約2.9ヘクタールの区域)



■ 伝統的建造物（建築物）